



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2021年11月01日 第1042号「週刊五十嵐レポート」

常勝軍団を作る秘訣

今年のプロ野球ペナントレースは、セリーグはヤクルト、パリーグはオリックスが優勝した。共に昨年最下位のチーム。日本一4連覇のホークスは残念ながらクライマックスにも進出できず4位に終わり、監督も代わる。しかし、昨年一昨年の日本シリーズで巨人が1回も勝てないホークスの強さが印象的だった。そのホークスが新たに常勝軍団を目指している。

1995年王監督がスタート、その年は5位。チーム内では負けるのが当たり前という雰囲気蔓延。ロッカーでは野球の話はなく、遊びの話がもっぱら。王さんは負ける悔しさ、勝つ喜びを選手に味合わせかけた。負けたらミーティング。96年大阪で「生卵事件」。大阪のファンから選手のバスに生卵を投げかけられる。王さん曰く、「ああいうファンが本物。勝ったら一番喜んでくれる」。98年3位。99年1位、日本一。同時に連覇を目指すことを選手に伝える。

小久保選手や城島選手の時代はどのような練習をし、どのようなトレーニングをして結果を残していったかというデータは球団にはない。当時のコーチやトレーナーが持っていた。しかし今は、柳田選手が入団したときから今までどういうトレーニングをしてどういようになったかというデータは球団が持っている。成功例、失敗例が蓄積されている。球団、フロント、現場が同じ方向を向いている。選手が多い分、コーチ、トレーナーも多い。1人1人意見が違うのは当たり前。しかし、この選手に対してのアプローチは今はこういう風にしよう、これがダメならこういう風にしようという風にと球団、フロント、現場(監督、コーチ、トレーナー)が一本化されている。(みんなが良かれとバラバラな事を言うと選手が迷う。迷わないように統一する)。球団・監督の方針をチームに浸透させるため、1軍から下位組織(2軍・3軍)まで巡回して情報を共有する。

王さんが今のホークスの土台を作った。弱い時期から強くなっていったプロセス。勝って当たり前、勝たないといけない。勝つ喜び。ファンへの対応。これらをマニュアルにして継承していく。

事業経営と一緒に。今年のヤクルト、オリックスは強い。しかし来年、再来年はどうかという疑問符。経営も単年度良くてもダメ。継続していなければならぬ。

ちょっと
気になる出来事

10月31日付日経新聞に、「飲食、夜も客足回復鈍く」という記事。

「25日に東京や大阪で飲食店の時短制限が約11ヵ月ぶりに解除されたが、夜間帯の飲食店への客足の戻りは鈍い。

25日から29日までの平日5日間の午後8時から午後11時台までの来客数が前週比で2割増えた。緊急事態宣言解除前の9月第4週と比べると2.3倍で夜の街に戻りつつある。

ただ、コロナ前の19年の10月第5週比では5割減と来店者の水準はなお低い。全時間帯(午前11時~午後11時台)の25日から29日までの来店者数も前週より1割伸びたが、コロナ前の19年10月と比べると約3割減にとどまっている」

どこを基準にするかで判断が変わる。緊急事態宣言解除前で見ると飛躍的に増加しているが、コロナ前で見るとまだまだであると。コロナによって環境は変わった。コロナ前に戻ることはないと考え。そうすると顧客に支持される店づくりをして顧客に選ばれるしかない。通常の競争原理に戻った。支援金はなくなり、店の価値が問われる。



一口メモ
知識

豊かな時代にこそ

萃(すい)は亨(とお)る。王有廟(おうゆうびょう)に仮(いた)る。

「萃(すい)」は「集まる」。人が集まる場所に物が集まるから、富んで盛んな時を表す。

「王有廟(おうゆうびょう)に仮(いた)る」とは、王が先祖の霊を祀る祭祀を行う。人心を集め、一心に願い、気を中心に集めるために行うものである。

人や物が集まると、欲心も集まり、奪い合いなどの争いが起こる。また、豊かで富んだ時代は感謝の心を忘れ、人々は志を見失う。豊かな時代こそ、気を集めて正し、引き締めて、志を立てることが大切である。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

●「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

●「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

